

「環境と社会問題」における授業評価報告

理科教育講座・佐野 栄

1. 授業の概要

対象授業の科目区分：生活環境コース

科目名：環境と社会問題

担当教員名：佐野 栄

登録学生数：17名

授業の目的：食糧不足や地球温暖化など私たちの身の回りには様々な環境問題があふれている。様々な環境問題を単なる自然科学的な取り扱いとして考えるのではなく、自然と人間の相互作用として考える。

到達目標：

- (1) 様々な環境問題の内容を把握できる（知識・理解）。
- (2) 地球-環境-人間の相互作用を理解できる（知識・理解）。
- (3) 様々な環境問題に対し適切な対応を考えることができる（思考・判断）。
- (4) 自分の意見を正しく人に伝えることができる（技能・表現）。

ディプロマポリシー：

- (1) 充実した生涯学習社会を築くため，生活環境に関する確かな知識と，得意とする分野の専門的知識を修得している。（知識・理解）
- (2) 生活環境にかかわる諸問題について論じ，適切な対応を考えることができる。（思考・判断）
- (3) 持続可能な未来を支える社会活動に取り組むための技能と豊かな表現力を身につけている。（技能・表現）

授業の方法・形式：討論形式

受講生をいくつかの班に分け，各回担当班を決める。担当班は，あらかじめ配付した文献を読み込み，内容について調べ学習を行う。授業時に全員に文献を配付し，前半の15分程度を文献の読み込みに当てる。その後，担当班が主導で文献の内容に関する討論を行う。授業の最後には，まとめと

して，教員が総括を行い，その後，各自，テーマに沿った小論文を作成する。

内容の概要：

産業の発達や豊かな生活を求めることの代償としての地球環境問題について，岩波科学ライブラリー「地球・環境・人間」（石弘之 著）等を利用し，社会問題としての地球環境のあり方を考える。

今年度特に意識して取り組んだこと：毎回授業終了時に受講生に記述させる小論文について，次週までにきっちりと添削して学生に返却すること。

2. アンケート結果

本授業に関する評価方法は，最後の授業で学生の自由記述式による意見を述べてもらう形式である。受講して良かった点と改善した方がよいと思われる点の2点について記述をしてもらった。一部紹介する。

設問(1)良かった点：

- 自分の考えにはなかった意見を他の人から聞くことができたことや，環境問題や世界での問題など，今まで知らなかった知識を得ることができた点。また，自分の意見をどう表現すれば伝わりやすいかを意識しながら文章を書くようになった点。
- 自分がどう考えているかを考え，言葉にする力が身についた。様々な社会問題や環境問題にふれることで知識が増えた。
- ディスカッション形式の授業は珍しいので，人の考えていることを聞ける面白さはあった。
- 答のない現在起きている問題に対して，どのような要因が考えられるか，いかに解決するかなど，問題解決能力が向上したと思う。また，文章を書くことが苦手だったので練習をする良い機会になった。
- 本授業では環境を通して世界各国の現状を知ることができました。記事が古かった

ので、自分で「最近はどうなんだろう」と思って調べることができました。また、討論形式だったので、自分の意見を主張する練習にもなって良かったです。

○授業を討論形式にすることにより、自分の意見を述べる機会が増えたこと。

○本授業を受講して、他の人の意見を聞いて新しい発見ができたり、自分の今現在の発言する能力の無さを知ることができました。これから就職活動が始まりますが、グループ討論対策として幅広い知識を身につけ、発言力をつける努力をしていきたいと思えます。

○良かった点は、自由に発言できるよう先生が工夫してくださったところ。この授業で文章を読み、環境問題に関心を持つことができた。新聞を読むなど、社会・環境について考えていきたい。

○毎回資料を読んで自分の意見が言えたことが良かったと思う。また、他の人の意見を聞いて、自分にはなかった新しい考え方を知ることができたこともとてもためになった。

○普段、文章を読む機会がないので様々な文章を読めて良かったです。また、みんなで討論するのもおもしろくて良かったと思えます。

○少し古いものではあるが、世界の事情を知り、自分の知識の活用する機会やきっかけになった。知識はあらゆる場所・分野に関連していることがわかった。

○日本だけに留まらず、世界の環境状況を知ることができ、またそれに対して、考え方が違う人とディベートをして、様々な切り口を知ることができるのは良い点だと思った。それから、文章の書き方を学べたのもこの授業ならではの点だと思った。他の講義は人数の都合もあってか、こんなに丁寧に添削してくれないからである。

設問②改善した方が良いと思われる点：

●前知識がないことなどから自分たちだけではなかなか議論が進まなかった。

●私自身の知識が薄いため、なかなか議論が進まなかったため、ある程度議論ができる内容であればもう少し面白かったと思う。あらかじめ派閥を作ってディスカッションの方が良かったと思う。

●意見の発表に消極的だったので、積極的に意見を主張した方が良かったと思う。

●自分たちが積極的に意見を述べるができなかったので、普段から社会問題に目を向けていきたいと感じた。

●悪かった点は、先生の助言が多く、誘導されているようで発言しづらかったところ。

●発表する人が毎回決まったメンバーだったように思うので、もっとみんなの意見が聞けたら良かったと思う。

●班によってよく意見を出す人と出さない人がかたよっていたことです。

●少し内容が難しい回がいくつかあった。その際、先生からもう少しヒントが頂けたらもっと議論が活発化すると思った。

3. 総括

アンケート結果を踏まえた次年度への改善点

討論形式の授業はあまりなじみがないので受講生にとっては良い機会だったようである。しかしながら、あまり活発な討論にはならなかった。討論のテーマ設定が重要になるので次年度は、もう少し学生のレベルに合わせた内容で行うように心がけたい。また、学生が討論を行いやすいような誘いかけをおこないたい。

授業の目的、到達目標、関連DPを踏まえた総括

授業で用いた資料は、岩波書店の科学雑誌「科学」に掲載されていた文章であり、特別な科学的知識がなくても十分理解できることを期待して準備した。しかしながら、学生からの意見にあるように、多くの受講生にとって、難しい内容が含まれていたらしい。また、学生は、答のない課題に如何に対応するかのすべを備えていないことが明らかとなった。この問題は本授業の受講生のみならず、多くの若者にいえる共通した課題であるといえる。

さらに、自分の考えを、相手にわかりやすく伝えることの難しさ、また、文章に表現することの難しさを理解した学生が多かったようである。大学生に求められている力をさらに引き出せるような授業づくりに一層努力していきたい。